

令和 4 年度 第 2 期 論文式刑法試験問題

受験上の注意事項

- 1 監督者の指示がある前に、この問題を開くことを禁止します。
- 2 試験開始の合図により、解答を始めてください。この試験では、六法を貸与し、その使用を許可します。
- 3 試験開始の合図の後、印刷不鮮明等に気付いた場合は、黙って手を挙げ、監督者に申し出てください。
- 4 解答は、答案用紙に黒インクのペン又はボールペンにより書いてください。
消せるボールペンや時間の経過により字が消えるボールペンは使用しないでください。また、鉛筆は不可です。
- 5 試験時間は60分です。
試験開始後20分以内及び試験終了前5分間は、答案の提出及び試験室からの退出はできません。それ以外の時間に退出（途中退出）する場合には、黙って手を挙げ、自席で答案及び問題を監督者に渡してから退出してください。
- 6 この問題は、試験終了後、持ち帰ることができます。
- 7 次のもの以外は机上に置かないでください。
受験票、筆記具、時計（計算機能等のないものに限る。）、眼鏡。
受験票は、氏名、受験番号が記載されている面を表にして、監督者が見やすい位置に置いてください。なお、上記以外のものについては、監督者の許可を得てください。
- 8 問題検討のためのラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題用紙に限り認めます。
- 9 携帯電話等は、必ず電源を切って鞆等にしまってください。
- 10 試験室内では、耳栓の使用はできません。
- 11 試験時間中の発病等やむを得ない場合には、黙って手を挙げ、監督者の指示に従ってください。
- 12 試験時間中の喫煙や飲食（ガム等を含む。）は、禁止します。
- 13 試験終了の合図とともに、直ちに筆記具を置き、監督者の指示を待ってください。
- 14 不正の手段によって試験を受け、又は受けようとした者に対しては、試験を停止し、合格の決定を取り消すことがあります。

〔刑 法〕

次の〔事例〕を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。

〔事例〕

- 1 甲（22歳男性）は、昼下がりに人気のいない路地を一人で歩いているA（65歳女性）を認めるや、Aが右腕に提げているハンドバッグをひったくろうと考え、Aの後方から近づき、追い抜きざまにAのハンドバッグの取っ手を握ったが、Aがハンドバッグを取られまいと自分の身体の方に引いたため、甲の持つ手がハンドバッグの取っ手から離れてしまった。さらに、Aが「きゃー、ひったくり。誰か助けて。」と大声で叫んだため、甲はハンドバッグを奪うのをあきらめ、「くそ。」と捨て台詞を吐いて足早に進行方向に逃げ出した。ところが、Aの叫び声を聞いた通りがかりのB（35歳男性）が甲の行く手をさえぎるように両手を広げて仁王立ちしていたため、甲は、捕まってたまるかとの思いから、Bに向かってスニーカー履きの右足を高く上げ、その足の裏でBの腹付近をどんと軽く突くと、Bは後ろにしりもちをついて転倒した。そこで甲は、その隙に、その場を離れ、逃走に成功した。
- 2 甲は、その後、S公園に赴き、公園内をぶらぶら歩いていると、無人のベンチの上にポシェットが置かれているのを見つけ、周囲を見渡したが公園内に人影はなかったことから、「誰かが忘れていったのだろう。」と思い、ポシェットを拾い上げて中を確認すると、現金1万円とクレジットカードが入った財布があったため、ひったくりに失敗した埋め合わせをしようと考え、財布から現金1万円とクレジットカードを抜いて持ち去った。上記ポシェットは、その持ち主であるCが、約30メートル離れた公園のトイレで用を足す際に置き忘れていったものであり、Cが上記ベンチを離れたのは、甲が上記ポシェットに気づく20秒前のことであった。Cは用を足した後、甲が上記クレジットカード等を持ち去ってから約10秒後に上記ベンチに戻ったが、すでに甲の姿はなかった。なお、Cが用を足したトイレからは、Cが公園内に目を向ければ、上記ベンチを見通せる場所であった。
- 3 甲は、C名義のクレジットカード（E信販会社発行）が手に入ったことから、これを使って飲食をしようと考え、駅前のDが経営するレストランに入り、ステーキ定食とビール2本を注文して、飲食を終え、会計で代金3500円の支払いをするに当たり、Cになりすまし、同店の店員に対し上記クレジットカードを差し出した。そこで、同店員は、クレジットカードを端末機で読み取らせると、売上票が印刷されて出てきたので、甲に渡して署名を求めた。甲はカード裏面にあった「C」の名を売上票の署名欄に記載して、これを提出した。クレジットカードの決済を済ませた甲は、何食わぬ顔で同店を出た。

〔設問〕

〔事例〕における甲の罪責について，具体的事実を摘示しつつ論じなさい（特別法違反の点を除く）。

